

国家基本政策委員会合同審査会ニュース

H27. 5. 20 第 189 回国会第 1 号

5月20日（水）、第1回の合同審査会が開かれました。

1 国家の基本政策に関する件

・岡田克也君（民主）、松野頼久君（維新）及び志位和夫君（共産）が、安倍内閣総理大臣と討議を行いました。

（討議者及び主な討議内容）

岡田克也君（民主）

- ・戦後70年間の平和維持のために日本国憲法が果たしてきた役割についての見解を伺いたい。
- ・今回の安保法制の見直しで、自衛隊が他国軍隊を後方支援できる条件が、活動期間中戦闘が行われない「非戦闘地域」から現に戦闘を行っている「戦闘現場」以外に拡大されることにより、自衛隊のリスクが高まるのではないか、見解を伺いたい。
- ・今回の安保法制の見直しで、密接な関係のある他国への攻撃があり、存立危機事態等集団的自衛権行使の3要件に該当する場合、自衛隊が相手国の領土、領海、領空において武力行使する可能性があるのか、見解を伺いたい。

松野頼久君（維新）

- ・安保法制について、今国会中の成立を目指すとしているが、3回の国会に渡って審議をした上で成立させた国際連合平和維持活動等に対する協力に関する法律（PKO協力法）の先例を踏まえて、しっかりとした審議を行うべきではないか。
- ・安倍総理は野田前総理との党首討論（2012年11月14日）において、消費税を引き上げる前に国会議員の定数削減を行うと約束したが、それが未だに実現していない理由を伺いたい。

志位和夫君（共産）

- ・我が国における過去の戦争は、間違っただけであったという認識の有無について伺いたい。
- ・1945年の第二次世界大戦の終結のために日本が受諾したポツダム宣言に記されている戦争観を認めているのか、伺いたい。